

# 「地域おこし協力隊受入の七か条」の解説

～「地域おこし協力隊」が力を発揮するために～

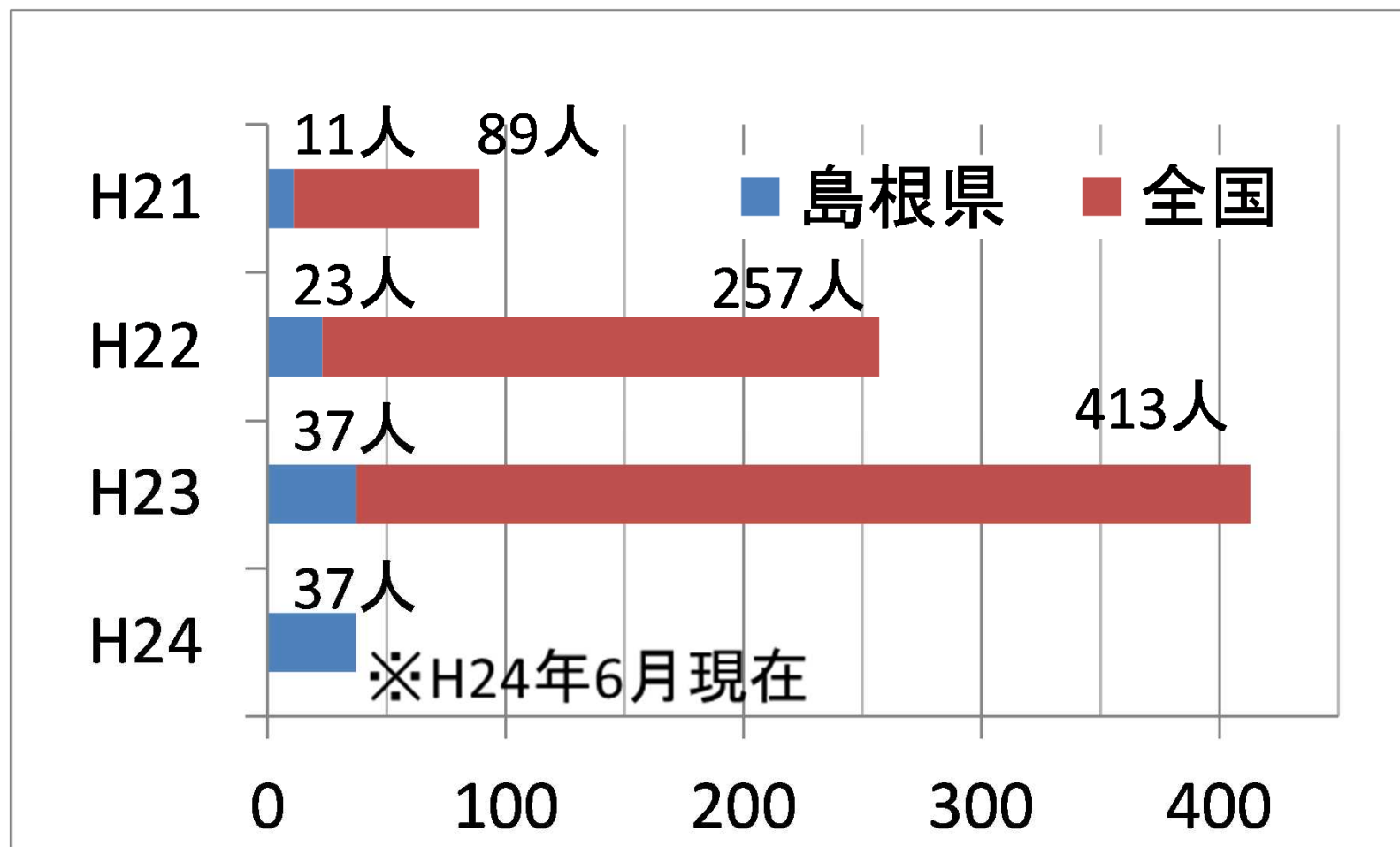
作成：島根県中山間地域研究センター（担当）研究員 藤田

(URL) <http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

(E-mail) [fujita-yasuyo@pref.shimane.lg.jp](mailto:fujita-yasuyo@pref.shimane.lg.jp)

## 地域おこし協力隊導入の状況

### ❁ 島根県内および全国の地域おこし協力隊設置人数



## 各種調査の概要

- ✿ 地域おこし協力隊交流会におけるワークショップ  
⇒理想的な「三者の5年間のワークフロー」を描く。  
(平成24年6月)

- 地域おこし協力隊等への聞き取り調査(平成22年~23年)  
⇒研究員が協力隊・役場担当者を訪問し、聞き取り。
- 村楽LLPによる独自アンケート(平成23年)  
⇒インターネットで呼びかけて、WEBフォームで回答。

● 成果の把握:  
隊員の定着、隊員が触  
媒となった新たな活動

● 課題の把握:  
地域・行政・隊員の  
それぞれの悩み

- 対応策の検討  
地域おこし協力隊導入の七箇条作成

# それぞれの立場の悩み・ズレ ①コミュニケーション

地域

行政

協力隊

自治体から地域に話が来た

- 若い人が入って定住⇒地域が盛り上がり元気に。
- リーダー役が少ない⇒外の風で盛り上げたい。

地域の人が、人がほしくて呼んだとは思えない。

自由に自分で発案してやってほしい。

役場が協力隊に求めることを明確にしてほしい

テーマははっきりしている。

受入側の担当者がはっきりしていなくて動かない。

定例の報告がなかなかあがってこない

書いてもコメントが返ってこないからモチベーションが下がる

ほう・れん・そうがない

来る人には地域を挙げて定住に向けて全力。

役場は特に地域と隊員をつなぐ活動はしなかった  
(隊員がイベントなどに出て関係を作っていた。)

協力隊の疑問

誰が・何をほしくて、協力隊を呼んだのか？

協力隊の活動のサポートの仕組みは？

# それぞれの立場の悩み・ズレ② 「地域おこし」の方向性

地域

行政

協力隊

仕事を手伝ってくれる  
ならぜひ！

差し迫ったニーズにこた  
えながら、その先の地域  
づくりを提案してほしい

提案しても通らない  
提案する相手がない

「隊員からの提案がない」

その時は一緒にやってくれるが、  
その後、自分たちでやろう、という  
ところに行かない

- ・地域がやりたいことと、  
隊員の提案が違うのでは。
- ・主役はあくまで住民。
- ・地域の人のお考えを引出して  
具体化してほしい。

提案するとダメだしがはいて  
地域までいかない

「地域おこし」  
って何なの？

地域・行政の思い：

- ・地域のやりたいことを引き出し  
てほしい
- ・地域が苦手な事務的業務も  
してほしい

協力隊の思い：

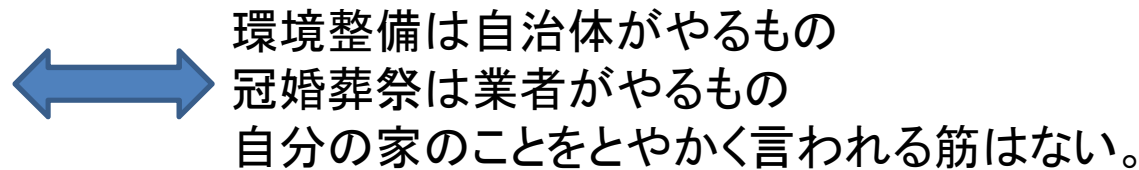
- ・地域のために、地域を盛り上げ  
るアイデアを考えたい。

## 問題点の整理

地域・行政・地域おこし協力隊それぞれが悩みを抱えているが、ズレがある。

### ズレの原因① 文化的背景の違い

- 地域で助け合って色々なものを守ることを感覚として持たない



- そもそも知らない言葉が多い。
- 物事の意味決定の流れ・速度が違う。

### ズレの原因② コミュニケーションの仕組みの問題

- 地域を知ってほしいなら、地域の人と関係を深める機会を作る。
- 協力隊の仕事内容・考えていることを共有できる工夫をする。
- 仕事の内容を一緒に考える場を持つ。


# 「外部人材」活用の効果を高めるために

## 外部人材に期待されること

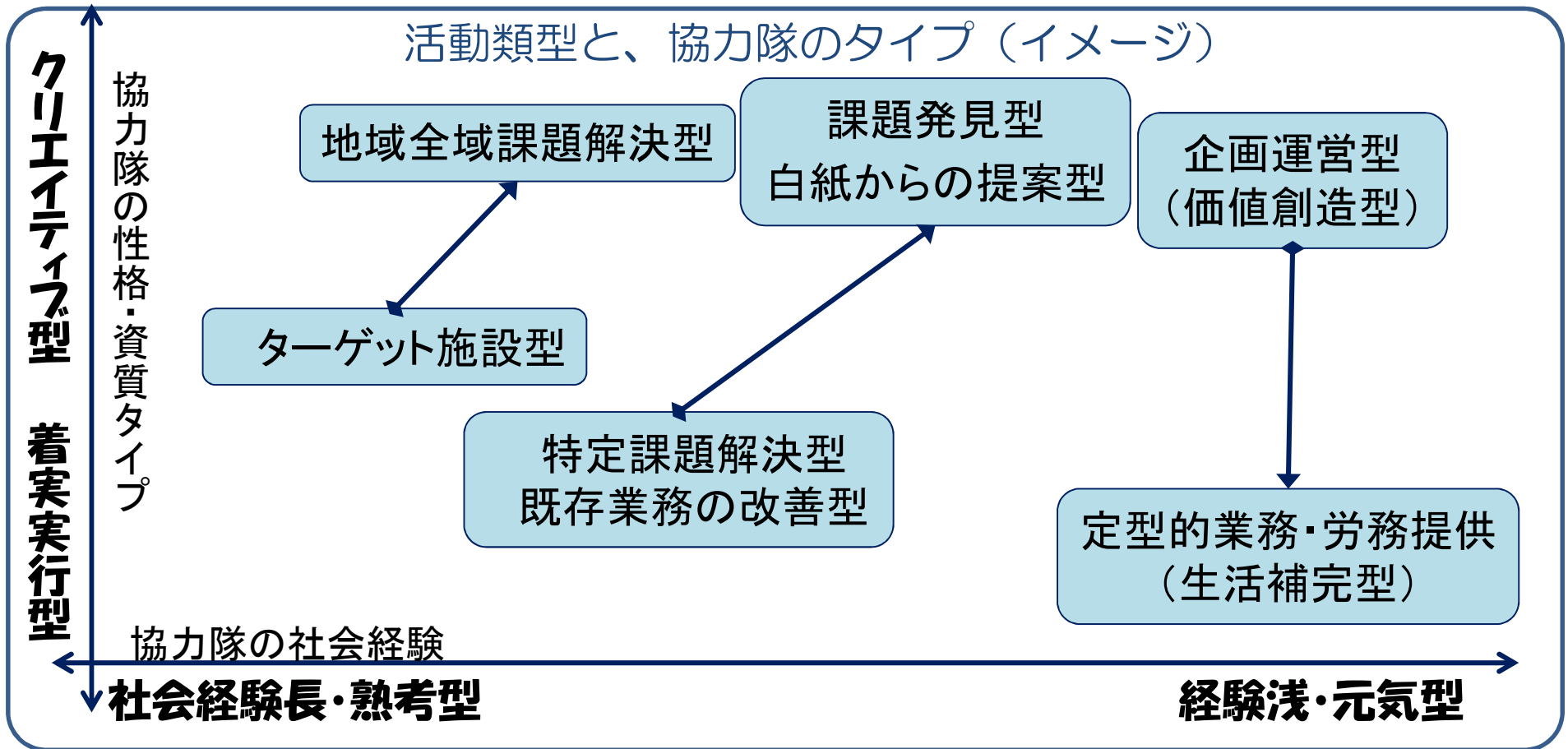
- 地域維持 ～協働作業の担い手
- にぎわい ～地域行事・活動の担い手
- 発見 ～外の目で、地域の課題・資源を発見、明確化
- 課題解決 ～地域にはない技術・知識を持って課題解決
- つながり ～住民のつなぎ役となって、住民の対話増加、新たな組織づくり
- 移住・交流 ～外部で培ったネットワーク・感覚を活かして交流推進
- 組織 ～事務局業務
- 意識変化 ～「あきらめ」から「可能性の期待」へ住民の意識が変わる

山口県中山間地域づくり支援室 野村氏資料を参考に藤田作成

## ヨ/モ/の力を引き出すには・・・

- 地域の発展段階に応じた、行政のさまざまなサポートが大事。
- 地域・協力隊・行政の協力が大事。  
いつでも相談できる信頼関係を築く。
-  でも、時にはそれ以外の第四者のかかわりが必要な時も。

# ズレの原因③ 地域の組織・活動の状況と、協力隊員の相性の問題



## 「協力」対象主体による区分

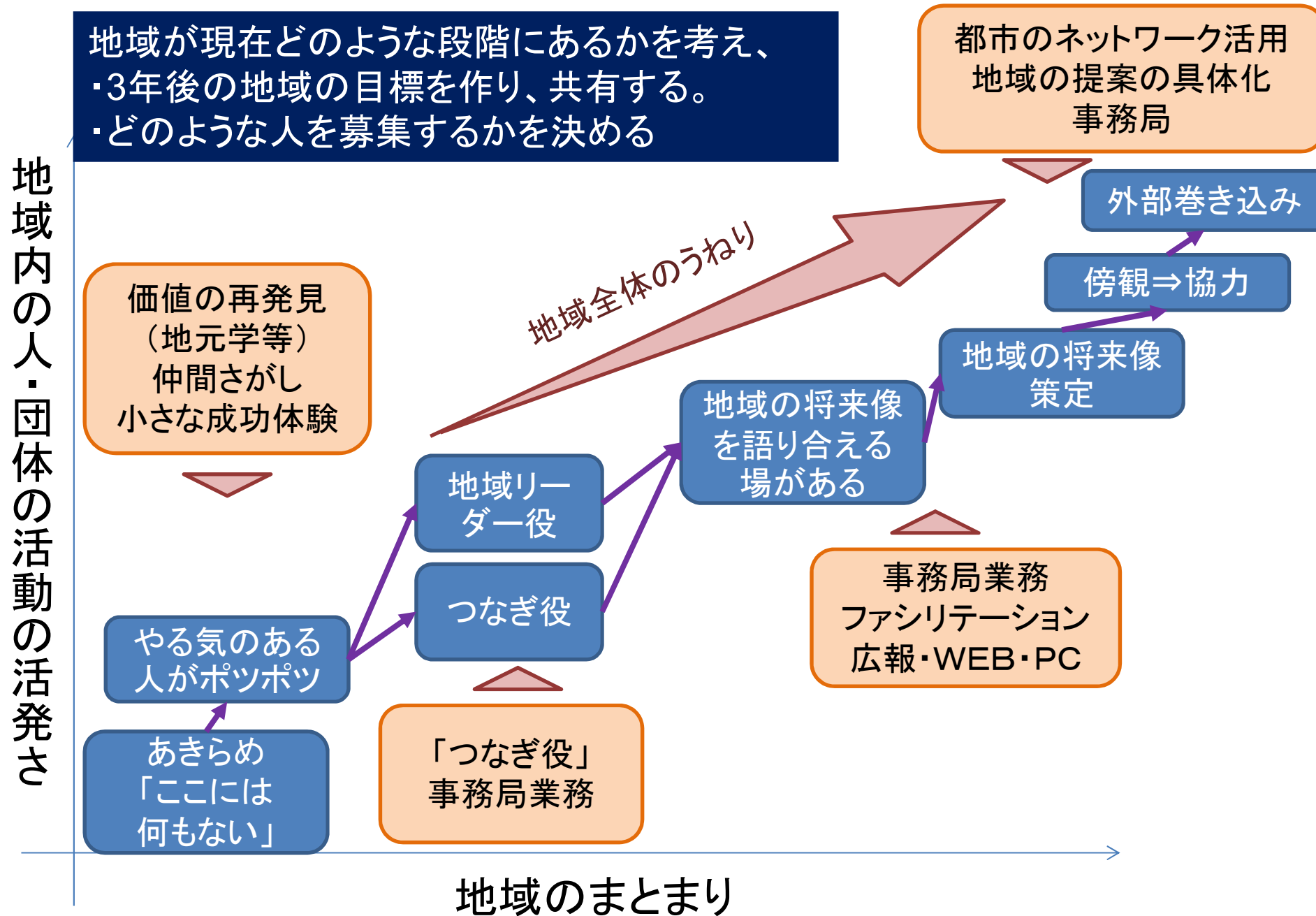
- ① 独立起業型
- ② 役場支援型
- ③ 公的機関運営支援型
- ④ 地域事業運営支援型

村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

地域が取り組む課題別に、応募内容を考えマッチングすることが大事



# 地域の主体性の発展と協力隊の関わり



# どうしたらよいか？

## 「地域おこし協力隊受入の七か条」

- ① 行政の中での受け入れ態勢ができているか？
- ② 協力隊をどのように配置するかきまっているか？
- ③ 仕事内容のすりあわせができているか？
- ④ 地域の主体性があるか？
- ⑤ 地域との関係づくりは大丈夫か？
- ⑥ 生活条件が整っているか？
- ⑦ 定住の見通しが共有できているか？

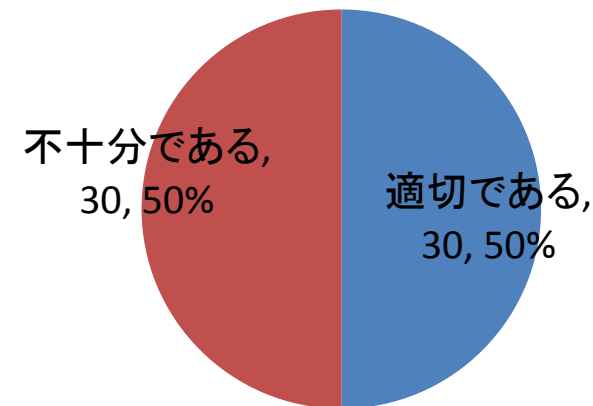
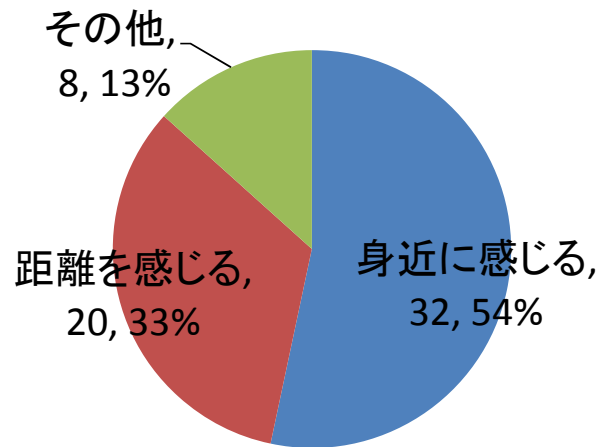
## 第1条 行政の中での受け入れ態勢ができているか？

×行政の人（特に他部署の人）が「協力隊って何する人？」か、わかっていないくてがっかりした。

×協力隊事業に関係する他部署との連携がとれていない

役場担当者・部署との意識共有

受入自治体との情報共有は適切だと感じるか



村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

### 七箇条のポイント

#### 💡 ヨソモノ登用・地域の発展段階

□ 行政としての目的を明確化。

□ 他部署に対しても説明、連携を確保する。

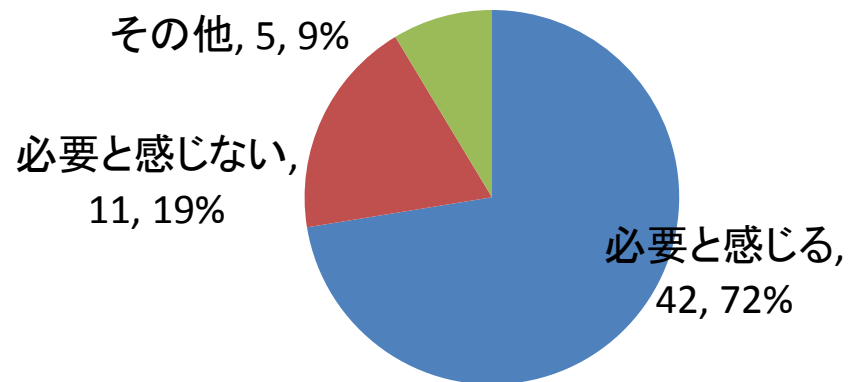


他部署で、受入地域在住・ボランティアサークルなど協力者を探す。業務日誌等あればコメントを返す、現場に見に行く等「見守り」感を。

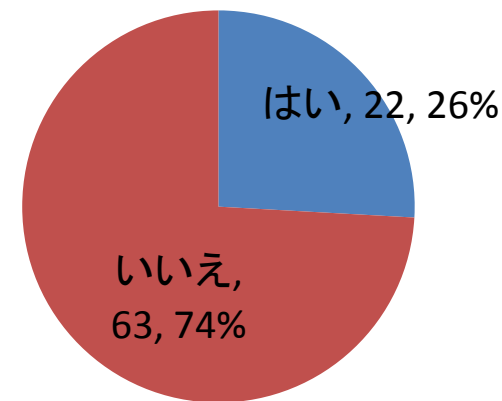
## 第2条 協力隊をどのように配置するか決まっているか？

- ×配属先には普段自分一人しかおらず、不安になった。
- ×配属先で、協力隊業務の相談をできる人が普段いない。
- 交流センターに配属、主事さんなどから色々教えてもらった。
- 協力隊事務所に隣接した交流センターで毎朝朝礼を行い、活動内容・意義の共有を図っている。

相談相手の必要性



役場以外に相談相手は用意されているか



村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

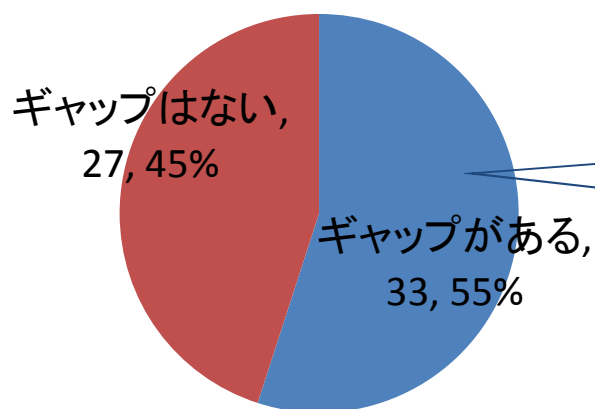
### 七箇条のポイント

協力隊と受入地域・組織の意思疎通を円滑にするために、  
□ 日常的なコミュニケーションの場を確保する、相談相手を決めておく

## 第3条 仕事内容のすりあわせができていますか？

- ×来てみたら、募集の時に聞いていた内容と違った。
- ×着任当初、何をしたいかわからなかった。
- ×地域外の視察・交流が業務に認められない。

### 募集内容(ミッション)と現実のギャップ



- ・地域おこしのイメージとのギャップ
- ・自治体に目的がない、不明瞭
- ・自治体・地域の両方に受入体制・目的がない
- ・自治体と地域の意識や目的のズレ など

... 三者三様の「地域おこし」を考えている。  
募集要項に総務省の要綱をそのまま載せている。

村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

### 七箇条のポイント

💡 最初は研修期間と考えて

- 着任前に、なるべく具体的に業務内容を決めておく。
- 着任後、三者で摺合せをする。



協力隊の資質・要望に応じて柔軟に「業務範囲」を考えるのも大事  
定住のためのスキル・情報・人脈が獲得できるものも業務に。

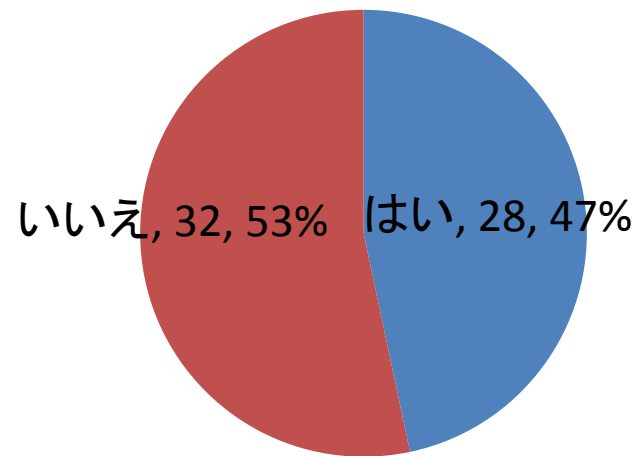
## 第4条 地域の主体性があるか？

×地域の人が協力隊のことを知らない。

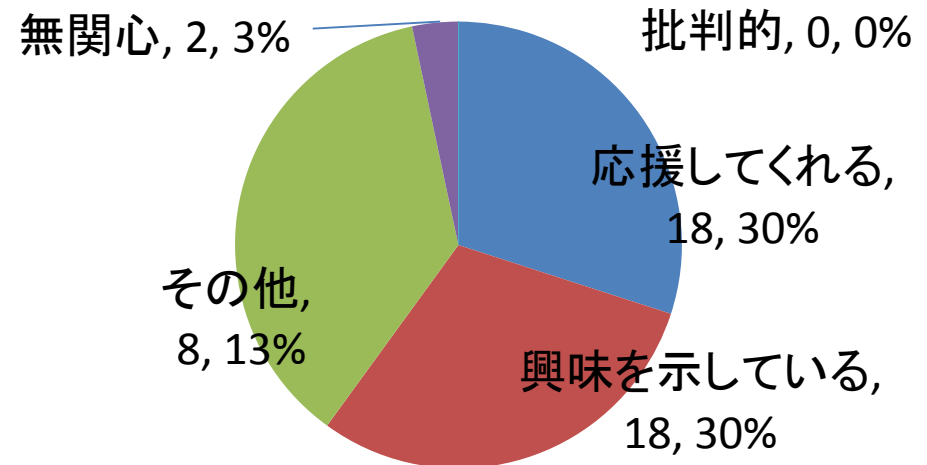
×「便利屋さん」と思っている。

×協力隊がやった仕事は隊員がいなくなったら誰もやらなさそう。

受入地域への事前説明、協力依頼が行われていたか



地域の協力隊への関心度



村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

### 七箇条のポイント

### 💡 地域の主体性の発展

- 地域おこし「協力」隊が協力する相手は？
- 最終的には、地域住民が地域の将来像を持つことが大事。
- 協力隊の導入をきっかけに地域の主体性づくりを進める。

## 第5条 地域との関係作りは大丈夫か？

- ×地域と都会の常識が違う。
- ×地域のしきたり、出ないとならないこと、お祝い事の決まりなどを教えてほしい。
- 行事予定表があって便利だった
- ×地域の方への紹介は特になかった。
- ×地域にどうやって出て行けば良いかわからない。
- チラシ配り・写真配布などを口実に各戸を訪ねた。
- ×地域の人（若い人）と友達が増えない。（いない？）
- 2年目に入りスポーツ大会等に参加して地域に知合いが増えた
- 自分でスポーツサークルを作ったら若い友達が増えた。



### 七箇条のポイント

- 都会の常識と田舎の常識はかなり異なる。双方に、事前にレクチャーを行い、着任してからのすれ違いがないようにする。
- 生活の世話役を決めて、集落暮らしの風習・文化を教える。
- 祭りやサークル活動などに声をかける。

## 第6条 生活条件が整っているか？

- ×車の運転ができずに着任後すぐ帰った人がいる。
- 自分専用の公用車があって、とても助かった。
- ×着任したら、家の修理がまだ終わっていなかった。
- ×地域に住めると思ったら、担当地域外の団地だった。  
→地域の一員として受容れてもらっていないと感じる。
- ×地域に頼れる人/相談できる人がいない。

### 七箇条のポイント

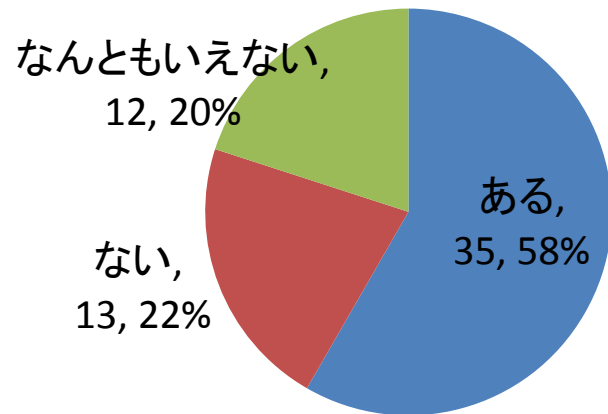
- 家の準備は必須。着任前に住める状態にしておく。
- 地域配置の場合は、地域内に家を用意する。
-  できれば、地域住民の手で簡単な修繕や掃除等していただく。  
⇒地域で受入れていく機運が醸成できる。
- 身近に相談できる人を用意⇒着任後の色々な不安を解消。
- 定住コーディネーターや先輩移住者を事前に紹介  
⇒諸々の生活条件を事前に知ることができる。
-  家・車は経費のかなりの部分を占める。  
他の活動費を圧迫しないように検討。



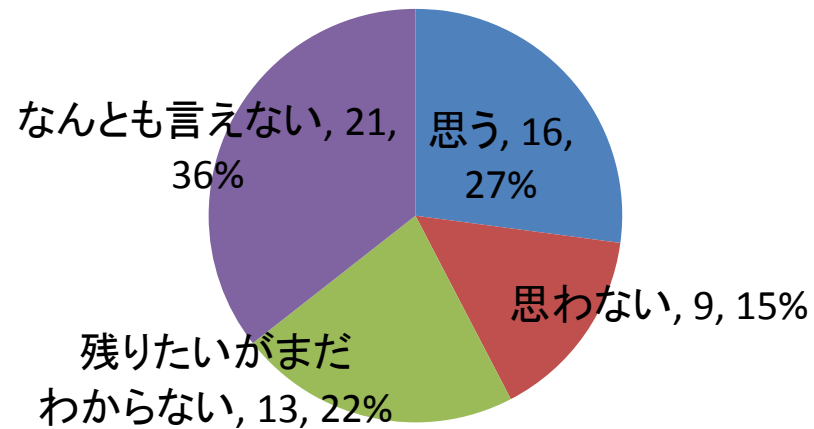
## 第7条 定住の見通しが共有できているか？

- × 「こんな形で定住ができる」見通しが無い・実現性が低い
- × 定住の相談をできる人・一緒に考えてくれる人がいない

任期終了後の不安について



任期終了後も地域に残りたいと思うか



村楽LLP「第一回地域おこし協力隊現況調査アンケート結果」平成23年10月21日 より

### 七箇条のポイント

- 業務を通じてスキルを身に着け、仕事につなげるプログラム
- 定住のための情報集め・人脈構築・能力獲得の時間確保
- 隊員の希望を聞き、適切な相談先を紹介。
- 💡 就農なら、普及部も交えて「人・農地プラン」作成なども。